

第 21 回 放送番組審議会

◆開催日時：2014 年 11 月 11 日（水）11：00～13：00

◆開催場所：株式会社ジェイコム中野 5 階会議室

◆出席者：委員 7 名＋オブザーバー 2 名＋J:COM6 名＝計 15 名（敬称略）

委員 川島正英（元朝日新聞 論説委員）
折原烈男（折原コーヒー株式会社 代表取締役会長）
田辺裕子（中野区教育委員会 教育長）
涌井友子（週刊とうきょう 主筆）
八十島信行（元オーエスエスブロードネット株式会社 顧問）
酒井直人（中野区広報担当 副参事）
長谷部智明（中野北口昭和新道商店街 会長）

オブザーバー 小野光（中野区町会連合会 会長）
宮島茂明（中野区観光協会 理事長）

J:COM 中野 清水正康（代表取締役社長）
奥住久義（取締役 企画制作部長）
佐藤雅広（企画制作部 アシスタントマネージャー）
西井俊介（企画制作部 アシスタントマネージャー）
村田直哉（企画制作部 チームリーダー）
荻野雅也（J:COM 東京中央ブロックエリア制作部長）

1. 審議内容

開会にあたり、佐藤アシスタントマネージャーから以下の説明あった。

- ・番組審議会規定の開催人数条件を満たしているため、本日の会議は成立となる
- ・川島委員、八十島委員は今年度をもって辞任
- ・来年度からは後任委員として小野氏、宮島氏に委任

2. 事業概要説明

議事説明と出席者紹介に続いて株式会社ジェイコム中野（以下 J:COM 中野）清水社長から会社の現状について以下の通り説明があった。

事業概要について

- ・ 4月 株式会社ジュピターテレコム グループ入り
- ・ 6月 J:COM ブランド統一、チャンネル編成変更、旧 JCN サービス販売終了、J:COM メニューのサービス開始、J:COM スマートテレビサービス開始
- ・ 7月 株式会社ジェイコム中野に商号変更
- ・ 加入世帯数 17万6千900世帯
- ・ ケーブル接続世帯数 15万400世帯
- ・ サービス提供可能世帯数 85%
- ・ 総加入世帯数 3万8千800世帯
(テレビ2万8千800・ネット1万9千300・電話2万2千900)

3. コミュニティチャンネル (J:COM チャンネル中野) についての説明

西井アシスタントマネージャーから下記項目について説明があった。

2014 年度番組実績報告

- ・ 6月 JCN 中野チャンネルから「J:COM チャンネル中野」に名称変更
- ・ 地域ニュース番組「デイリー中野」の強化を図る
放送時間を15分から20分に拡大
モバイル中継器を使った生中継コーナーを実施
- ・ 通常番組のほか、地域イベントの特別番組を5番組放送した

◆ デイリー中野のコーナー詳細

中継コーナー

【月曜日】隔週

「区役所からこんばんは」中野区役所から中継(行政情報)

「中野経済新聞トレンド情報」中野区産業振興拠点から中継(経済・トレンド情報)

【水曜日】毎週

「中野町会めぐり！あなたの町会どんなトコ？」区内107町会から中継(町会情報)

その他のコーナー

【火曜日】毎週

「ブルッケ隊長のチビッコくらぶ」中野区医師会監修(子育て支援)

【金曜日】毎週

「マル得情報」商店街連合会と連携(お店、お得情報)

◆特別番組放送の詳細

「中野区長選挙速報(生中継)」区長選の開票を当選確定まで放送
「中野チャンプルーフェスタ(収録)」エイサー団体、和太鼓演奏など会場レポート
「NUNO JAZZ FESTA(生中継)」ユーストリームと同時中継
「中野にぎわいフェスタ(生中継)」各会場からイベントの様態を中継
「東北復興大祭典なかの(収録)」当日、一週間後にダイジェスト放送

4. 番組に関する質疑応答

番組のダイジェスト版のDVDを視聴後、質疑応答を行った。

【意見】(酒井委員) 区役所のコーナーは、担当が直接PRできるため好評、生放送は緊張感があって面白い。
今後は区役所以外の施設からの中継も積極的に行い、中野区として協力していきたい。

(長谷部委員)「安心・安全情報の発信、身近な話題・区民の笑顔が満載魅力あるイベントの特別番組放送」という方針が番組づくりに活かされていると感じた。
前回の審議会であがった「町会の情報が住んでいる人から見えにくい」という意見に応える形で始まった町会のコーナーは、
リピート率が高く視聴率向上にもつながると思うので、これからも是非続けて欲しい。
昔の中野区の映像を放送する番組「もっとなかの」は、かなり需要があると思う。
古い情報を知っている人に出演してもらおうとさらに良くなるのではないかな。

【質問】(川島委員)町会コーナーは、地域に入り込んでいく良い取り組み。
107町会への呼びかけ方はどうなっているのか？

【回答】(西井)町会連合会に中継する町会を選定していただいている

(小野オブザーバー)各地区の常任理事会でお願いをし、
15地区でそれぞれ町会長を集め、手を挙げたところをお願いしている。
今までの町会活動は防犯パトロールなどいろいろあるが、
もうひとつ突き抜けた企画を考えるきっかけになり、
このコーナーは、町会の発展のためにいいと思っている。

【意見】(川島委員)古い地域の町会と比べて、
新しいマンションなどに住んでいる人には、考え方やアプローチの仕方が違うと思う。
地域のことに消極的な人たちへのアプローチを考えていくことも
今後課題になるのではないかな。

(涌井委員)私も町会のコーナーに出演しました。

町会などの古い歴史は今残しておかないと、残せなくなると思う。

昔地主がいた町会は苗字が同じ人が多い、雑色(南台)や川添(東中野・中央)といった今は呼ばれなくなった地名・町名など、昔と今を対比できるものがあると興味を持つ人が多いのではないか。

(酒井委員)区役所に、地番の変化を一覧にした資料があるので、それを対比に使ってみてもおもしろいかもしれない。

【回答】(佐藤)現在放送している広報番組「ピックアップなかの」では、中野探訪というコーナーで古い中野の歴史を放送している。今の町会と対比する形で、コーナーで取り上げてみてもいいかと思う。

(折原委員)町会連合会の小野会長、観光協会の宮島理事長が委員になることで、審議委員会に厚みが出てきた感じがして、期待している。町会の特色を掘り起こしていけば、息の長い紹介ができると思う。

(田辺委員)町会に関われない若い層の方々を引き付けていく必要もあると思う。教育委員会の立場としては、なるべく多くの子育て世代に中野に住んでもらいたいという思いがあるため、例えば親子で行きやすいお店や場所などの紹介もあると中野に親しみが持てるのではないか。行政のPRはするが、民間のことまではなかなかできないため、取り組んで欲しい。

(長谷部委員)中野区出身ではない若い世代の人たちが、意外と自分たちの住んでいる場所を掘り下げたいと思っていることが多いと感じる。中野が舞台になった事件や、昔の住所など、まだまだ中野で掘り下げることがたくさんあると思う。

(川島委員)「昭和」に焦点を当てて、切り口にしてもいいのではないか。

(八十島委員)コミチャンは古い話から新しい話、防災情報など年々充実していると感じるが、これをどうやって見てもらうかが今後の課題ではないか。

スマートフォンなどで情報収集を済ませている若い人たちを、こちら側に引き込む方法を考える必要があると思う。

【回答】(清水社長)民放と違うところは「この街の」という地域性だと思うので、ニュースや特別番組を通じて多くの人を撮影する、出演してもらうことが、

見てもらえる番組づくりにつながると考えている。

少ないスタッフ人数でも、取材の依頼にできる限り応えていきたい。

【意見】(長谷部委員)中野区は25歳～35歳位の世代が多いが、

午後6時・7時の放送時間は家にいない。

午後11時・12時頃の夜遅くの時間帯に、今日のまとめを放送して欲しい。

【回答】(西井)現在、再放送は当日の午後9時30分、午後11時30分に放送している

(長谷部委員)ただの再放送ではなく、今日のまとめを作ってはどうか。

台風情報などは、渋谷や銀座の映像が映っても親近感がわかないため、

中野駅の定点カメラなどの映像とあわせ、今日の情報をまとめたものが見られるといい。

【質問】(八十島委員)災害時、緊急時は時間を変更して放送することもあるのか？

【回答】(西井)中野区と結んでいる災害協定に基づき、

状況によっては内容を変更して放送している。

(荻野)10月に大きい台風が2つ来た時には、

中野をはじめグループ局では、通常のデイリー以外にも

番組内容を差し替えて、定点カメラと情報テロップや、

臨時の生放送などを行っている。

民放・NHKでもかなり細かい情報を出すようになってきたが、

中野区だけの情報を吸い上げて出せるのは有効なので、今後さらに強化していきたい。

実際大きな被害がない場合でも「被害がない」という情報を出すことで、

注意喚起につなげるのがケーブルテレビの役目でもある。

(清水社長)災害時には小中学校の休校情報やブルーシートがもらえる場所などの

中野区民が身近に欲しい情報を、区と連携してこれからも伝えていきたい。

【意見】(宮島オブザーバー)個人的に、現在の放送時間帯では見られないため、

一週間分でもいいのでインターネットでいつでも見られる仕組みがあると、

情報を受け取ることができる。

学生やオフィスの方にも、興味を持ってもらえるのではないかと。

【回答】(荻野)技術的にはできるため、ニーズがあれば検討していきたい。

著作権、加入者対象の線引きなどについて考えていかなければいけない。

◆その他

閉会にあたり、清水社長から各委員の貴重な意見に対し、すぐに対応できるものはスピード感をもって実施、またすぐに対応できないものも長期的に検討・準備して、実施すべきものはしていきたいと総括があった。

以上